

琉球大学学術リポジトリ

琉球大学の特徴を明確にした研究教育拠点形成

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学21世紀COEプログラム広報委員会 公開日: 2008-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩政, 輝男, Iwamasa, Teruo メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/4849

琉球大学の特徴を明確にした研究教育拠点形成



岩政 輝男（琉球大学学長）

21世紀 COEプログラムの活動はますます活潑になっております。若手研究者の研究成果が続々と論文として出版されることやサマープログラムが軌道に乗りつつあり、頼もしく感じております。琉球大学のCOEプログラムは以下に述べるような特徴があり、それぞれめざましい発展がみられます。

国際活動もいろいろな形で進められておりますので、アジア太平洋域の研究教育拠点としての原型が出来上がりつつあると言って良いのではないのでしょうか。海外の研究者が本学で共同研究を推進していること、留学生を受け入れていること、大学院生が積極的に海外での研究や成果発表に出かけていること、などはその表れです。

海外でも国際シンポジウムを開催しています。昨年度のフランス領ポリネシアでの国際シンポジウムに続き、今年度はシンガポールにおいて熱帯島嶼の生物多様性に関するワークショップを開催しました。本学はシンガポール国立大学の研究者とは、サンゴ礁研究、甲殻類の分類、生態学研究などの分野で交流を進めてきましたが、今回、若手研究者を中心とした交流を実施したことで一層緊密な関係を構築することが出来ました。

活動が活潑になる中で、その特徴を見失ってはいけません。本学の中期目標には「沖縄の地理的特性をふまえつつ、最先端の特色ある研究を重点的に推進し、熱帯・亜熱帯科学、島嶼・海洋科学で世界をリードする研究拠点の形成を目指す」と示してあります。またア

ジア太平洋域との関わりが重要であることを随所に述べております。本COEプログラムはまさにこれらの中心として活動すべきもので、琉球大学の特徴ある重要な研究分野として大学として支援し、将来においても継続しなければならないプログラムです。

サンゴ礁・島嶼に関する研究分野は極めて広範なものです。生物学はもとより、熱帯医学、熱帯農学、民俗学、地理学、島嶼経済学など多様な分野が対象となりえますので、これらを統合した研究体制を構築することが琉球大学の特徴ある学問研究を発展させ、若手研究者を育成することにつながると考えております。

その中で海外の研究機関との共同教育は重要なポイントです。教育の国際化が期待される中で、本学は多様な形での留学生の受け入れを検討します。すでにCOEプログラムの関係者が中心となってアジア太平洋域の幾つかの大学と共同教育（ダブルディグリープログラム、サンドイッチプログラム）に関する議論が開始されています。議論の進展を期待します。

21世紀COEプログラムはいよいよまとめの段階にさしかかります。さらに次期のプログラムであるグローバルCOEプログラムへの申請に向けて、反省と工夫を重ね、知恵を出し合って邁進すべき時期でもあります。関係者の一層の奮起、活躍を期待しております。